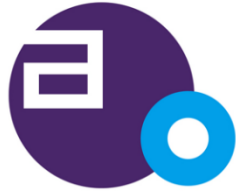


令和5年度 宮城県公立高等学校 公立高校入試講評

仙台あおば学舎 講師陣による 公立高校入試講評



各教科の出題方針についての県教委の説明と、学習塾「仙台あおば学舎」の講師陣による講評をまとめた。

■国語

第1問では、基礎的な漢字の読み書き、四字熟語や行書の特徴の知識をみた。第2問では、主人公が心の中にある詩作への思いに気づく場面を描いた文章から、叙述に基づいて登場人物の心情や表現の効果などを読み取り、適切に表現する力をみた。第3問では、生物多様性に関し、生物を形質の面から論じた文章と、種質の面から論じた文章を素材とし、比較させて読ませることで、書き手のものの見方や考え方を的確に捉えらるるかをみた。第4問では、中国宋代の漢詩を素材とし、古典の基礎的な知識を基に、古人のものの見方や考え方を捉える力をみた。第5問では、読書の魅力を伝えるキャッチコピーを創作させることで、豊かに発想する力や自分の考えを適切に表現する力をみた。

■数学

第1問は、数と式についての基礎的な知識と計算力。二つのグラフの交点の座標から反比例の比例定数を求める力をみた。第2問は、扇形の弧の長さを求める力、基本的な図形の性質から面積を求める力などをみた。第3問では、生徒が問題を考える授業場面を素材とし、起こりえる場合を順序よく整理し考察する力、底辺の長さや三角形の面積の関係を基に三角形の面積を二分する直線を考察する力などをみた。第4問では、2組の辺の比が等しいことと対頂角の性質から二つの三角形が相似であることを証明する力、三方の定理を使って線分の長さを求める力や複数の相似な三角形を見いだして論理的に問題を解決する力をみた。

■社会

地理、歴史、公民の知識、調査や資料から情報を読み取ってまとめる技能、社会的現象の意味や相互関係についての多面的・多角的に考察し、適切に表現する力をみることを狙いとした。第1問は「平等権」を素材とし、平等権の歴史や基本となる考え方に関する知識、女性の就業率の変化とその背景について、資料を基に考察する力をみようとした。第2問では「東南アジアの経済発展」、第3問では「古代から近世における農村の私たちの生活」を題材とした。第5問では「中部地方の自然環境と人々の暮らし」、第6問では「日本の文化の発展」を題材として、いずれも資料を基に考察して表現する力をみようとした。

■英語

第1問では、絵を見ながら英語を聞いて内容を理解する力、会話の流れに沿って適切に答える力、会話を聞いて内容を理解し質問に適切に答える力、短い会話を聞いて場面を捉えて質問に即興で応答する力をみようとした。第2問では、短い会話を通して基本的な文法・語法に関する知識と語彙力、基本的な英文を構成する力をみた。第3問では、高校生が部活動で学んだことを書いた英文の内容を正確に読み取り、要旨を的確に捉える力をみた。第4問は、高校生が衣料廃棄物の問題について意見を述べた英文から必要な情報、概要、要点を的確に捉える力をみた。第5問は、自分の考えやその理由を相手に伝えるように英語で表現する力をみた。

■理科

第1問は、軟体動物のからだのつくりを調べる観察、梅雨の時期、原子の構造解明に関する資料を素材とし、自然の事象や現象に関する基本的な知識や技能などがあるかをみた。第2問は、タマネギの根の観察から、根のつくりに関する知識、実験操作に関する知識や技能、細胞の変化と成長の関係について、思考・判断・表現する力をみた。第3問は、地層の調査結果から化石や堆積岩の知識や地層のつき方について、第4問は、サリメントンに含まれる物質の量の測定方法に関する生徒の会話から、化合物や化学変化などの知識などについて、それぞれ思考・判断する力をみた。第5問は、小球の運動を調べた実験から、小球の速さについて思考・判断・表現する力をみた。

出題方針と講評

会話の流れ把握する

4人の話し合いからの出題は、高校の「論理国語」にあたる内容で昨年以上に論理や会話の流れを把握する力が問われた。広義のコミュニケーション力と言え、「謙遜」とは別の能力が問われた。議論を交通整理する経験や、複数他者に分かりやすくものごとを伝える能力は新指導要領が求めるコミュニケーション力や積極性に当たっている。第3問の説明文にも変化が見られた。二つの説明文の共通部分を考えてみる。あるいは二つを重ねることで新しく見えるものを発見させるものだった。二つの文章の主題を読み取る旧式の変換国語単線的だが、大問の中にある複数の主題がどのように絡められていくのかを考えるもの(多層的)に変化していく兆しを感じさせた。

見慣れない問題多い

平均点は下がらなかった。配点が例年大きくなり「プラタの活用」「確率」「標本調査」の出題が増えた。昨年度は問題を柔軟に捉え、論理的な解法を導出する「数学的考え方」が要求されたが、見慣れた問題の出題も多かった。今年度は見慣れない問題が多く、「解き方を知らない」「終わる問題が少なかった」。第2問の標本調査は問題文から状況を理解し、解法を導く必要がある。規則性の問題も、数列の法則を理解して解くほか、連続する2行の規則に着目して解くこともできる。「問題を深く読み取り、今ある情報から最適な解法を考える」という根本的な数学の解法を訓練した生徒ほど平常心を保てただろう。見慣れない問題に対処できる「数学的スキル」を身に付けていく必要がある。

社会の動き理解必要

分野ごとの出題順が変わっていたが、全体的に難しい問題はなかった。第2問は、近年経済成長をしている地域の問題。昨年は「ラジアル」、今年は「東南アジア」と経済情勢の知識を問う問題だった。過去と現在の比較がしかり出て来れば容易だったはずだ。第5問の日本地理。記述問題は、今の日本が直面している「高齢化と後継者問題・伝統文化」について問うものだった。現状の問題点を把握していれば、スムーズに答えることができたはず。全体を通して、歴史・地理の知識だけでなく、社会の動きや流行のつながり、昔のことだけでなく、現在の状況を理解する力が試されたと感じた。

前年踏襲の出題構成

出題形式に大きな変化はなく、前年踏襲の出題構成だった。第3問の長文問題は例年通り他県と比較すると短めだが、話題も部活動などでの問題・挫折を経験して成長するというパターン化された内容。対策をした生徒には既視感があり、解きやすかったはず。第4問は「環境問題」が取り上げられた。リユース・リデュース・リサイクルについての話題で、ほとんどの学校教科書でも取り上げられている。昨年度は「職業」がテーマだった。普段から新聞などで社会の動向に関心を持っていれば、平易な英語で書かれているので大きな戸惑いはなかったはず。下位・中位層の生徒も得点しやすく、上位生にとっては、どの問題も取りほしが許されない問題だった。

基本的な知識大切に

第1問は、基本的な知識があれば易しい問ばかりだ。第2問は、細胞の変化などを読み取る観察実験で、実験の本質を理解し、植物のつくりを把握する必要がある。地層の調査結果を読み取る力をみた第3問は、地表からの深さや位置のずれを理解できるかが問われた。第4問は、情報を基に質量や割合を求める問題で、条件を正確に理解し、計算の数値間違いなどに気を配る必要がある。第5問は小球の力の関係性、力の学的エネルギーの保存を理解していれば難しくなかった。全体を通して、昨年よりも解きやすい印象だった。そのため基本的な知識や応用する力が大切になった。

昨年に続き、全体を通して、難易度はさほど高くはないという印象だった。受験生からも、「全体的に解きやすい。」という声が聞かれた。入試本番での巻き返しがあり望めない状況となり、内申点の影響が、大きくなる形となった。新中3・新中2・新中1生は、そのことを肝に銘じ、これから勉強と向き合ってほしい。

今年も仙台あおば学舎講師陣による

公立高校入試の講評が読売新聞に掲載されました

2023年(令和5年)3月7日(火)